Ｎｏ．２４８【２０１７年３月３日配信】
青森町の絵図（担当：工藤）

こんにちは！　室長の工藤です。

今回は藩政時代に描かれた青森町の絵図に関する話題をひとつ。絵図に限らず一般に「歴史資料」として扱われるものは、それが「いつ」書かれた（描かれた）かが問われます。「いつ」が明示されていない資料は、まずはこれを推定・確定していく作業（年代比定）をしなくてはいけません。

そうしたなか、市史編さん事業では弘前市立博物館が所蔵する、藩政時代の青森町の絵図の年代比定を試みました（『新青森市史』通史編第 2 巻）。資料の年代が判明すると、その資料の利用価値は格段に増し、このときの作業では成立間もない 17 世紀末の青森町の姿を明らかにすることができたのです。

さて、ここで藩政時代の青森町の絵図の年代を考えるときの目安を二つご紹介しましょう。まず、一つ目は海岸部に注目してください。そこには弘前藩の湊番所が描かれています。これが、1 か所であれば元禄 4 年（1691）以降、複数あればそれ以前と考えられます。大ざっぱにいえば、湊番所が複数描かれていれば 17 世紀、1 か所であれば 18 世紀以降の絵図と見立てられます。

湊番所附近
（『新青森市史』資料編 4 付図「青森町絵図」〈貞享～元禄初年〉トレース）

もう一つは、青森町奉行所の位置です。奉行所は湊番所と違って描かれないケースもあるのですが、これが青森町のほぼ中央、善知鳥宮の東向かいにあれば寛政 5 年（1793）以前、柳町通りの海手側にあればそれ以後となります。ですから、奉行所が海手に描かれるとおおむね 19 世紀の絵図と考えられます。

もちろん、これらはあくまで目安であって、年代を確定していくにはさらに細かく絵図を見ていく必要があります。例えば、堤川の西側に黒石藩の蔵が描かれています。ここにも年代を解く手がかりが記されているケースが多くあります。

藩政時代の青森町は、発掘調査をされたことがないと聞きます。したがって、当時の青森町を知る手がかりは絵図によるところが大きいといえます。ですから、その絵図の年代を読み解くということは、「地域を知る」ための重要な作業のひとつなのです。